リハビリテーション天草病院だより

2022年1月　No.101

発行　埼玉県越谷市平方343-1／(医)敬愛会広報委員会

巻頭言

今年の抱負 模倣困難性の追求

リハビリテーション天草病院　院長　天草　弥生

明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

当院は175床全ベッドが回復期リハビリテーションに対応しており、脳血管障害の患者さんが80%以上を占めています。リハビリテーション科専門医３名、神経内科専門医６名、総合内科専門医５名、糖尿病専門医２名、呼吸器専門医１名の医師陣とリハビリを支えるセラピストも総勢180名(理学療法士83名、作業療法士70名、言語聴覚士27名)と充実した診療体制を整えています。医師、歯科医師、療法士、看護師、薬剤師、栄養士、ソーシャルワーカー等多職種がチームとなり情報共有しながら患者さんの機能回復を目指し、重症患者改善率、在宅復帰率は常に高い成績を維持しています。

当院のリハビリテーションの特徴の一つにボバース概念に基づくチーム医療があります。ボバース概念とは脳や脊髄などに障害を負った患者さんに対し、熟練したセラピストが神経・筋の可逆性や生体力学等を利用して一人ひとりにあったプログラムで機能改善を目指すアプローチのことです。熟練したスタッフときめ細やかな教育体制は、当院の財産であり宝です。これに歴史と伝統が加わることでさらに質の良いリハビリ医療が提供出来ているのだと思います。

さて、私ごとですが、昨年末読売新聞社より「病院の実力2022」の取材を受けました。そのときインタビュアーから「３年前と現在で病院が変わった点はどこか」という質問を受けました。大きく変わった点は私がリハビリ科指導医になり、大学病院との連携が密になったことです。例えばボツリヌス治療外来は順天堂大学の藤原俊之教授が当院を訪れ治療を行っています。ボツリヌス治療とは、脳卒中の後遺症の一つである手足のつっぱり(痙縮)に対しボツリヌス菌を筋肉内に注射し痙縮の改善を図る治療法です。ボツリヌス治療はその継続率の低いことが問題とされていますが、当院は75%以上と高いのが特徴です。これは確かな技術とスタッフ間の連携の賜物だと思います。高次脳外来は埼玉医科大学総合医療センターの大林茂教授が担当。地域リハビリスタッフと密に連携し患者さんの社会復帰への足掛かりとなっております。摂食嚥下リハビリは日本歯科大学の菊谷武教授率いる口腔リハビリテーション科と当院歯科が連携し、嚥下内視鏡検査、嚥下造影検査を施行。嚥下障害に関しては経管栄養から経口摂食への回復率(経口摂取回復率)が50%以上と高いことも特徴です。外部のリソースが加わり重症患者改善率は更に上昇しています。最新の医学的知見や大学病院での医療を取り入れられるメリットは非常に大きいです。

46年の歴史と伝統に裏打ちされた確かな治療と最新医療の融合でさらに進化を続け、他が真似できない模倣困難性を追求してまいりたいと思います。今後もスタッフと共に患者さんの「自分らしい生活」のため常にベストより上を目指し日々精一杯の努力をしていくことをお誓い申し上げます。

「保健・医療・福祉」知識のひろば

『ＦＩＭ（フィム）』ってな～に？

リハビリテーション部　部長　武田　幸治

「ＦＩＭ」という用語をご存じでしょうか。聞いたことがない方がほとんどかもしれません。当院に入院されたことのある方は、毎月作成されるリハビリテーションの計画書にＦＩＭの点数が記載されていたことと思います。2016年の診療報酬改定から、ＦＩＭを用いた成果主義も導入され、病院にとっても重要な位置づけとなっています。今回はＦＩＭについて、簡単にご紹介させていただきます。

ＦＩＭとは「Functional Independence Measure（機能的自立度評価法）」の略称です。日常生活などの動作の介助量を把握することができる評価方法であり、医療や介護分野において広く用いられています。

ＦＩＭの評価項目は大項目、中項目、小項目に分類されており（図１）、それぞれの小項目での自立を７点満点としています。小項目18項目全てが自立すると126点となり、全てに全介助を要する場合は18点になります。

ＦＩＭの最大の特徴は「できる動作」ではなく、「している動作」を評価する点であり、たとえリハビリ室でその動作ができても、病室で日常的にできなければ成果として評価されません。したがって、ＦＩＭの点数が上がったということは、日常生活において自分でできることが増えた、あるいは介助量が減ったとみることができます。

当院では、評価が適切に行われるように、多くの職員が外部のＦＩＭ講習会に参加し、評価をするときには、担当看護師と作業療法士が協同して行っています。ＦＩＭを用いることで、対象者の日常生活動作の変化をスタッフ全員で共有し、現在の状態にあった目標設定と適切な介入をすることができます。またＦＩＭは、リハビリテーションの改善度をみる上でも大変有効です。回復期リハビリテーション病棟の施設基準にも用いられており、当院は全国平均と比較して、常に高い数値を維持しています。

ＦＩＭについて詳しく知りたい方やわかりにくい点がございましたら、担当看護師や作業療法士までお声かけください。

大項目	中項目	小項目
運動項目	セルフケア	食事
		整容
		清拭（入浴）
		更衣（上半身）
		更衣（下半身）
		トイレ動作
	排泄コントロール	排尿管理
		排便管理
	移乗	ベッド・椅子・車椅子
		トイレ
		浴槽・シャワー
	移動	歩行・車椅子
		階段
認知項目	コミュニケーション	理解
		表出
	社会的認知	社会交流
		問題解決
		記憶

図1　ＦＩＭの評価項目

患者さん・ご家族からのお便り

「社会復帰への安心感」

越谷市　平谷　安男

令和３年７月末、腰痛が発生し、左足を引きずりながら３～４日間我慢しておりましたがやはり医者に相談した方が良いかと思い、整形外科のクリニックを訪ねました。しかしながら、痛みは止まらず歩行さえ困難となってきたので、越谷市立病院の外来を訪ね診てもらいました。取り敢えずＭＲＩの検査をすべきと言うことで傷み止めの薬を２週間分頂き家に戻りました。しかし痛みは増々酷くなり、自宅で寝たきりの老人となってしまいました。トイレに行くにも犬のように四つん這いでないと動けない状態で大変苦しい２週間を過ごしました。８月17日やっとＭＲＩの検査を行い翌々日８月19日入院させてもらいました。病名は腰部脊柱管狭窄症とのことで手術の必要有りとの事でした。入院はしたものの腰部と左足の激痛は増々酷く寝たきり状態は変わらず毎日痛み止めの点滴を２回継続しており、夜も眠れない日々が続きました。手術日が決まったのは入院してから20日後の９月９日でした。本当に辛い日々の継続でした。

手術は全身麻酔で５時間を要しました。手術後３～４日間は腰と左足の激痛は変わらず本当に苦しく夜も眠れない毎日でしたが、数日後には激痛と左足の痺れは徐々に解消し院内の移動は車椅子の介護付から歩行器を利用して自分一人の移動が出来るようになりました。やっと自分の足で動けるようになったかと感動したものです。リハビリが必要との医師の勧めにより10月４日天草病院に転院してまいりました。転院時、左足の不自由さは多少あったものの自分自身一人でも歩行は出来るようにはなっておりました。自分が注意さえしていれば、自分自身で自宅でのリハビリが出来るのではないかと信じておりました。しかしながら、天草病院に転院して目にしたのは車椅子の方や杖を持った方、言語障害を持った多くの方々がおられ、リハビリに努めておられました。その一人一人にその患者の障害に相応したきめ細かいケアとリハビリを行っている様子を目撃し、自分もある程度しっかり天草病院にてリハビリをしなければならないのだと痛感させられました。

私はかつて仕事の関係で、インドネシアの首都ジャカルタに駐在しておりました時、急性膵炎に陥り１ヶ月半程その国のトップレベルの病院に入院したことがあります。急性膵炎という病気は詳しく解明されていないそうですが、口からの食物は一切厳禁ということで当初は点滴での栄養補給でした。ある程度日にちが経過したころやっと流動食から口に、食物を摂るけれど油ものを一切とってはいけないとの医師からの説明でありました。ところが、或る日トーストとバターが食事として出てきました。油もの摂食は厳禁と言われていたのですがもう解禁されたのかと思い食べようとしたその時、看護師さんが跳び寄って来て食べては駄目といって取り上げられました。どうも配膳ミスがあった様です。もし食べていたらどうなっていたのだろうかと思うと、あの救急車で運ばれ入院した時の脂汗が出るほどの耐えきれない鈍痛を思い起こし恐怖さえ覚えたものでした。その点、天草病院は様々な障害を持った患者様に相応した細かいケアとリハビリを行っているので、決して口にしてはいけない食べ物が出てくるような某国のようなミスは起こり得ようがありません。信頼のおけるケアとリハビリを受けられる安心感があります。

現在、私の左足は屋外歩行も出来るようになりました。お風呂も一人で入れるようになり、夜も睡眠薬を頼らず熟睡できるようになりました。あの激痛と痺れで身動きできなかった寝たきりの自分を考えますと今の状態は夢のように思われます。これで安心して悩める事も無く無事元の生活に戻り社会復帰を果たせるものと確信しております。これまできめ細かくリハビリに携わって頂いたリハビリの先生方、看護師さん、介護士の皆さまに心から感謝申し上げる次第です。ありがとうございました。

（投稿日　令和３年10月28日）

「人生山あり谷あり」

野田市　還暦の女性K

ある日、突然朝トイレに行こうと思って立とうと思ったら腰に力が入らなくなり歩くことが出来なくなってしまいました。

野田市内の病院に入院し、脊髄炎と診断されました。どうしていきなりこんな病気になってしまったのかなぁーと思いました。目の前が暗くなり、もうどうでもいいやと投げやりになってしまいました。でも病気になってしまった以上どうにか歩けるようになりたいと思い考えを変えて前向きに考えるようになりました。「人生良い事ばかり」ではないと思いました。日大板橋病院の方に転院し23日間入院しており入院一週間は、点滴でご飯は食べず水だけでの生活が続き一週間過ぎたあたりからやっとお粥が出てきて一口食べたときにはなんて美味しいんだろうと思いました。いつもは、ただ食べているご飯が食べられなくなり食べられることはとても幸せな事なんだと思い知らされました。また野田市内の病院に転院して来ました。主治医の先生からリハビリ専門のリハビリテーション天草病院を紹介して頂きました。８月26日に転院をすることになりましたが、入院して数日間は「回復して歩ける」ようになるのかと夜も考えたこともありました。看護師さん達の優しい笑顔と明るさには、心が救われました。リハビリスタッフも各人が特法でリハビリして頂いておりとても感謝しております。医師やリハビリの担当をしてくださった方には大変感謝しております。清掃スタッフの方も挨拶してくださり細かく清掃してくださいました。全ての部屋の清掃が行き届いていて綺麗です。本当にありがとうございました。

（投稿日　令和３年10月13日）

感謝の声（投書箱より）

すべて思い出になる。何と楽しい思い出になることか！病気になってこんな楽しい思い出になるとは、幸せと思えば幸せだ。優しい方々に助けられて救われて、心が穏やかになった。そして淋しさに耐えられた。決して苦しくはなかった。苦しかったのは運ばれたあの何日間だけだった。リハビリの生活は優しさに包まれ幸せを感じた日々でした。心から感謝致します。本当にありがとうございます。

（Ｃ病棟　入院患者様より）

私自身、天草病院のリハビリに満足しております。初めてのリハビリでありますが、術後、又は全身のケアまでの力強いリハビリをして頂けたことに感謝しております。リハビリの先生方の全身の力を注いでくださったお陰で、現在の自身の状態に回復できたこと嬉しく思っています。ありがとうございました。病棟の皆様、リハビリの先生方お疲れ様でした。

（Ｃ病棟　入院患者様より）

院内の「人・施設・設備」ご紹介

リハビリ部における地域連携活動（介護予防事業）

リハビリテーション部　地域リハビリ担当　阿部　高家

私達は、病院内でのリハビリ業務に加えて、越谷市民向けの「介護予防事業」も行っています。これは、高齢化が一気に進む近未来における諸問題を解決すべく、国が2003年から本格的に力を入れ始めた「地域包括ケアシステム」という枠組みの一つです。介護予防事業では、病気や怪我といった未来のリスクを極力排除し、元気な高齢者を増やすための体作りを支援します。

余談ですが、高齢化の進行スピードにおいて日本は世界最速であり、中でも埼玉県は国内最速なのです。さらには、都市部で進行スピードが速い傾向にあるため、越谷市は埼玉県内で常に上位に入っています。つまり越谷市の高齢化対策は注目されていると言えます。

2013年、そんな越谷市でも「介護予防事業」が開始されるとの風の噂を聞きました。そこで、日頃から入院や外来リハビリで連携していた市内の医療機関や介護保険事業所のリハ専門職の仲間達と「越谷市リハビリテーション連絡協議会（以下、リハ協と略します)」という団体を設立しました。国が介護予防事業等にリハ専門職を登用する意向があったため後押しとなり、リハ協で越谷市の介護予防事業を受託するに至りました。

それ以降、介護予防体操を市民に指導するボランティアを育成する「介護予防リーダー養成講座」、介護予防に資する講話や体操を希望団体に出張指導する「リハビリテーション専門職による出張講座」、自宅でもできる体操を自宅で直接指導する「訪問支援事業」、そして当院のような事業所に通って頂き３月間集団体操を実施する「通所型サービスＣ」、といった多くの介護予防事業を開発・実施しています。リハビリ専門職の団体を作り、行政と複数の介護予防事業を行っている自治体は少なく、先駆けとなっています。これからもリハ協の一メンバーとして全国から注目される事業を展開し、入院や外来でのリハビリに加えて、近隣住民の方の健康増進にも貢献していきたいと思います。

最後になりますが、今も新型コロナウイルスによって様々な活動が自粛され、高齢者の運動不足や体力低下が危惧されています。そこでリハ協では、自宅でも安全にできる運動の開発を受託しました。2020年度は姿勢の改善を図るストレッチである「越谷リセット体操」。2021年度は全身の筋力トレーニングである「越谷マッスルセブン」という体操を考案しました。どちらの体操も老若男女問わずおすすめでき、お仕事や介護等で身体に負担がかかっている方には特におすすめです。無理のない範囲で運動をしていた方が、心も体も楽になることが証明されており、将来のリスクを軽減することにもつながります。各体操のリーフレットや紹介動画を作成していますので、スマートフォン等をお持ちの方は下記QRコードを読み込み、是非ご覧ください。

越谷リセット体操（リーフレット）

越谷マッスルセブン（リーフレット）

越谷リセット体操
越谷マッスルセブン
（動画）

関連施設だより

在宅医療の要である訪問看護ステーションの役割と魅力

訪問看護ステーション敬愛　所長　泥谷　陽子

訪問看護は、病気や障害を抱えながらご自宅で過ごす人に看護師やリハビリ専門職が訪問し、医療的なケアや生活サポートを行うサービスです。その役割と魅力についてお話しさせていただきます。

≪在宅医療の実態≫

国は重度の要介護状態になっても住み慣れた自宅で自分らしく最期まで過ごせるように体制づくりを整備しています。しかし現実には住み慣れた自宅でも生活を送る上で難しさが生じることがあります。その理由の一つにご利用者の多様化・重度化・複雑化が進んでいる実態があるからです。

◇多様化：重度の障害を持つ小児や精神障害を持つ在宅生活者、難病や認知症の人等、さまざまなご利用者が増加しています。また人生の最期は自宅で過ごしたいと希望するご利用者も増加しています。

◇重度化：がん末期の人、人工呼吸器装着者、チューブ類を使用して生活する人等、医療ニーズの高いご利用者が増加しています。

◇複雑化：一人暮らしや高齢者世帯、老々介護、認認介護等、家族だけで介護を行うことが難しく、またさまざまな問題を抱えるご利用者も増加しています。

≪訪問看護の役割≫

訪問を行う看護師やリハビリ専門職の役割は、誰もが平等に持つ生活の時間を支えることです。食べる、話す、体を動かす、排泄する、等々。提供しているサービス内容を点で見ると「誰でも出来そう」と思うかもしれません。しかしそこには医学的根拠や知識を持って関わる必要があります。一人ひとり違う生活環境の中で、健康の維持や自立した生活を取り戻すために行える方法を考え、関わる時間が限定されている状況でも、わずかな体調の変化に注意を払い、その先を予測して対応しています。

また、ご利用者がより良い生活を送れるよう、さまざまな職種と連携しています。往診医、歯科往診医、病院主治医、ケアマネジャー、地域包括支援センター、病院地域連携担当者、ホームヘルパーや福祉用具事業所、通所サービス事業所、ショートステイ先施設など、多方面からの情報を基に生活上での困りごとにも丁寧に対応しサポートしています。

≪訪問看護の魅力≫

訪問看護ではご利用者に対し、マンツーマンで30～90分間のケアを行っています。ご自宅でより良い生活を送るために、看護師やリハビリ専門職がゆっくり時間をかけて向き合います。その結果、ご利用者やご家族との距離が近づき、信頼関係が深まっていくことが魅力と感じております。

≪さいごに≫

ご利用者やご家族の思いやお悩みに寄り添えるよう、職員一同、誠意をもって対応させていただきます。どうぞお気軽に当ステーションまでご相談ください。

≪お問い合わせ先≫

TEL：048（971）0788

月曜～金曜の8時30分～17時30分

編集手帳

⚜読売新聞によると高齢者への虐待が、コロナウイルスの感染拡大に伴うストレスなどで深刻になっているそうです。厚生労働省が昨年暮れに公表した調査では、2020年度の家庭での虐待件数は1万7281件と、06年度の調査開始以来、最多を更新しました。介護職員による虐待も高止まりしており(20年度の虐待件数は595件)、対策が急務とされています。家庭内虐待の急増について、厚労省は「要介護状態の親などが介護サービスの利用を控え、一緒に過ごす時間が長くなったことで、家族のストレスが高まった可能性がある」と分析します。「介護サービスの利用を控える」傾向は、当法人が設置する「デイケア」でもみられます。コロナ以前と比べますとコロナ禍では確実に１割以上の方々が利用を控えている状況です。

⚜次に、日頃中国に忖度する朝日新聞や「進歩的文化人」の中国での虐待事例への対応に疑問を呈する産経新聞の「産経抄」の一部をご紹介します。「少数民族を弾圧し、ウイグル人女性に不妊手術まで実施しているとされる中国に対しては、もっと非難してしかるべきだろう」「相手が中国となるとおとなしくなる。以前は歴史的経緯からの贖罪意識が主な理由であったが、現在では経済、軍事両面での脅威に抗せず、すっかり膝を屈しているようにみえる」「だが、中国が今日のように怪物化したのは日本の支援も大きい。中国軍が民主化を求める市民らに発砲して制圧した天安門事件(1989年)では、西側諸国の対中制裁を解く役割を演じた。日本が総額で７兆円にもなる政府開発援助(ＯＤＡ)などを続けなければ、中国軍事大国化は難しかったのではないか」

(理事長　天草大陸)

当法人施設が取得する第三者評価認証

患者さんが病院を評価するには、その病院自身の「自己紹介」も参考になりますが、第三者の評価も重要です。当院では「病院機能評価機構」と「ＩＳＯ」の認証を取得してます。

なお、併設の老人保健施設でも「ＩＳＯ」の認定を受けています。

表紙のことば

今回は、Ａ病棟の患者様にご協力いただき折鶴で「寿」の一文字をかたどりました。2022年のスタートにふさわしい「寿」には、祝うべきめでたい事柄・長生きするものが長くもつ・長寿を祝う・喜ぶ等の意味があります。Ａ病棟では、患者様の気持ちに寄り添い、リハビリの成果を分かち合いながら、患者様が安心して入院生活を送れるようケアしてまいります。作品はＡ病棟Ｂチームに掲示してありますので、ぜひご覧ください。

(Ａ病棟スタッフより)